



少子化に関する県民意識調査結果概要

調査の概要

1 目的

県内における子育ての現状や少子化対策に関する県民の意識やニーズ等を調査し、特性を把握するとともに、新たな岐阜県少子化対策基本計画策定のための基礎資料とする。

2 調査対象及び回答者数等

調査対象	県内に居住する満18歳以上50歳未満の男女各1,500人 計3,000人
抽出・調査方法	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法・郵送調査
調査期間	平成30年9月上旬～平成30年9月下旬
回答者数	944人（回収率31.5%）

I 独身者の結婚に関する意識

- 独身者の約9割が「いずれ結婚するつもり」と回答しており、独身でいる理由は、男女ともに「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も多い。

図1 結婚の意思

N=428

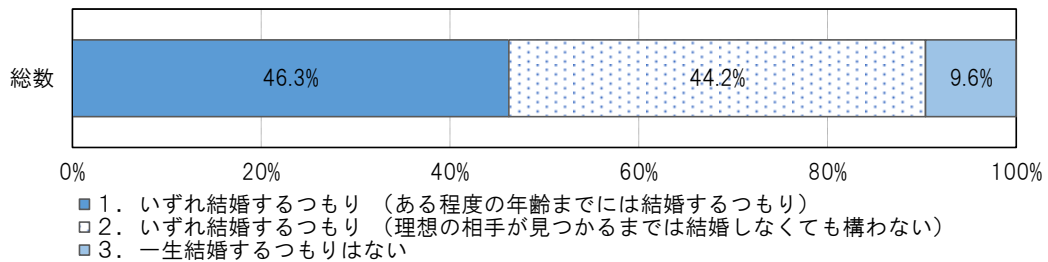
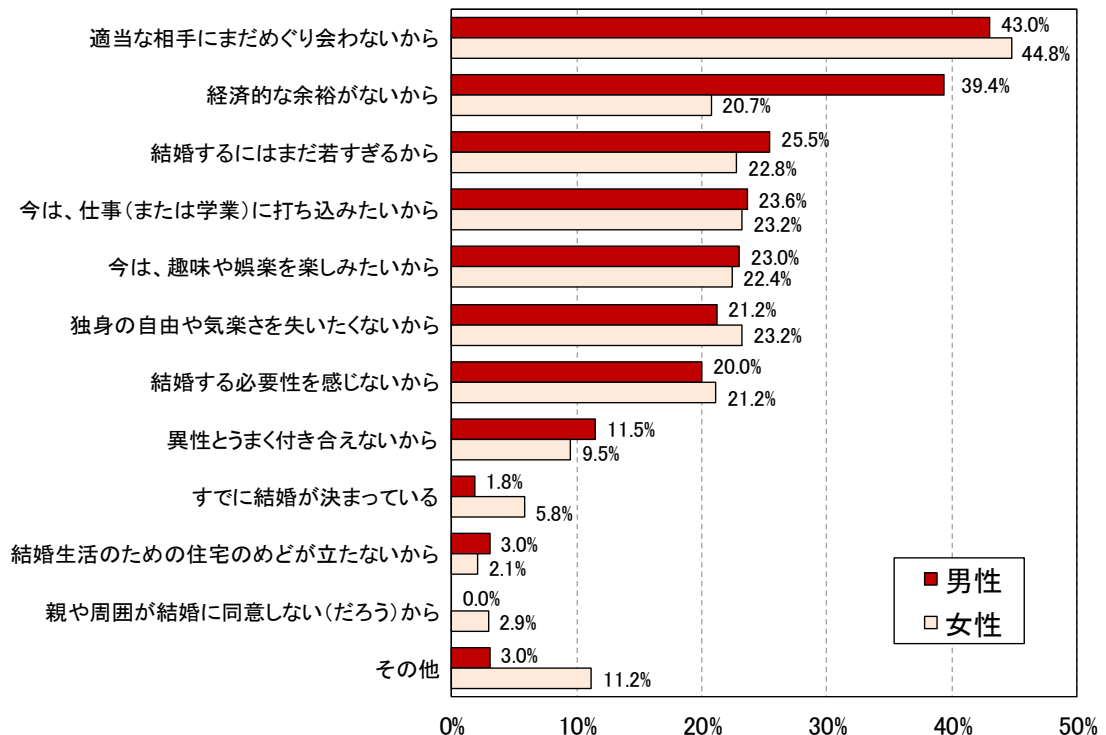


図2 独身でいる理由（3つ以内選択）

男性:N=165 女性 N=241

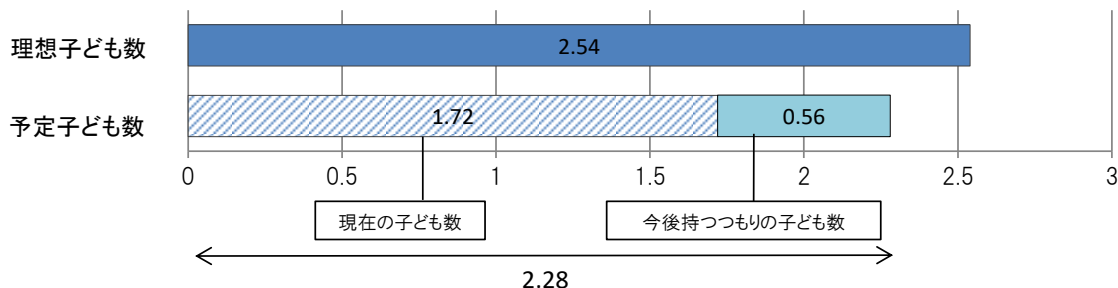


II 理想子ども数と予定子ども数

- 理想子ども数は平均2.54人、予定子ども数（現在の子ども数1.72人+今後持つつもりの子どもの数0.56人）は平均2.28人で、その差は0.26人となっている。

図3 平均理想子ども数と予定子ども数(既婚者)

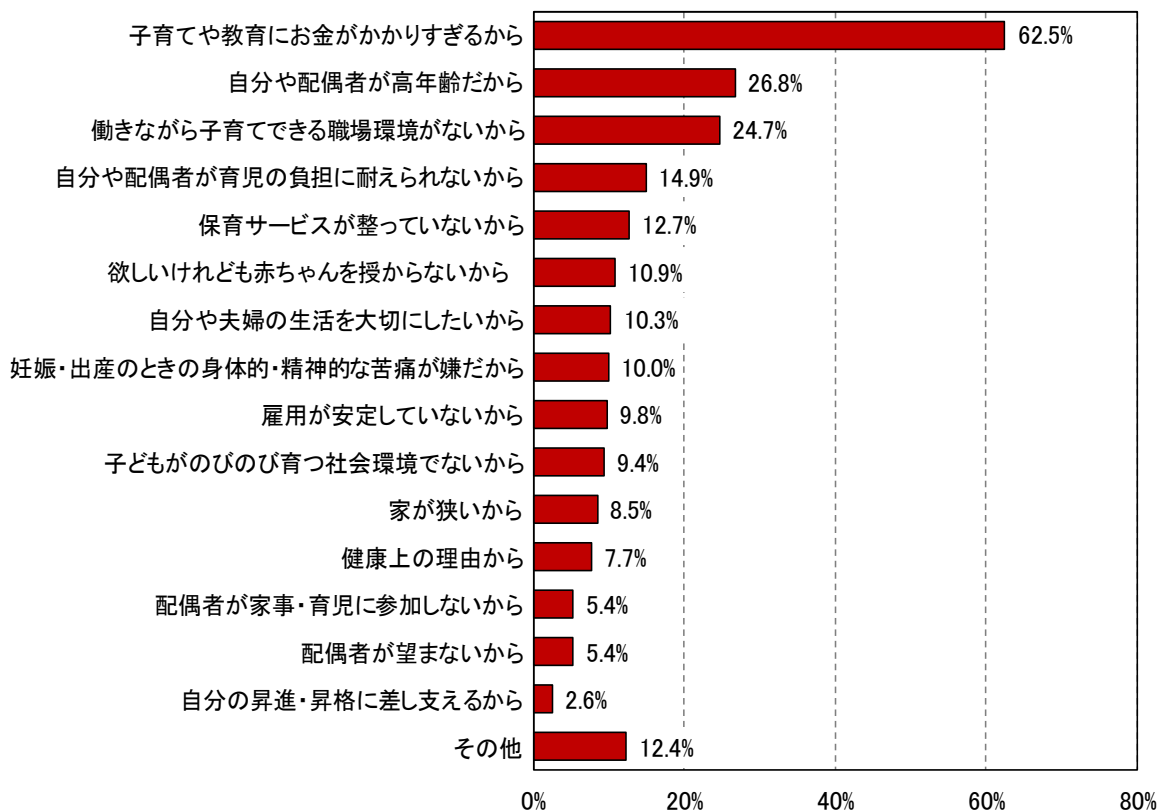
N=455



- 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が62.5%で最も多く、次いで、「自分や配偶者が高齢だから」、「働きながら子育てできる職場環境がないから」の順となっている。

図4 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由(複数選択可)

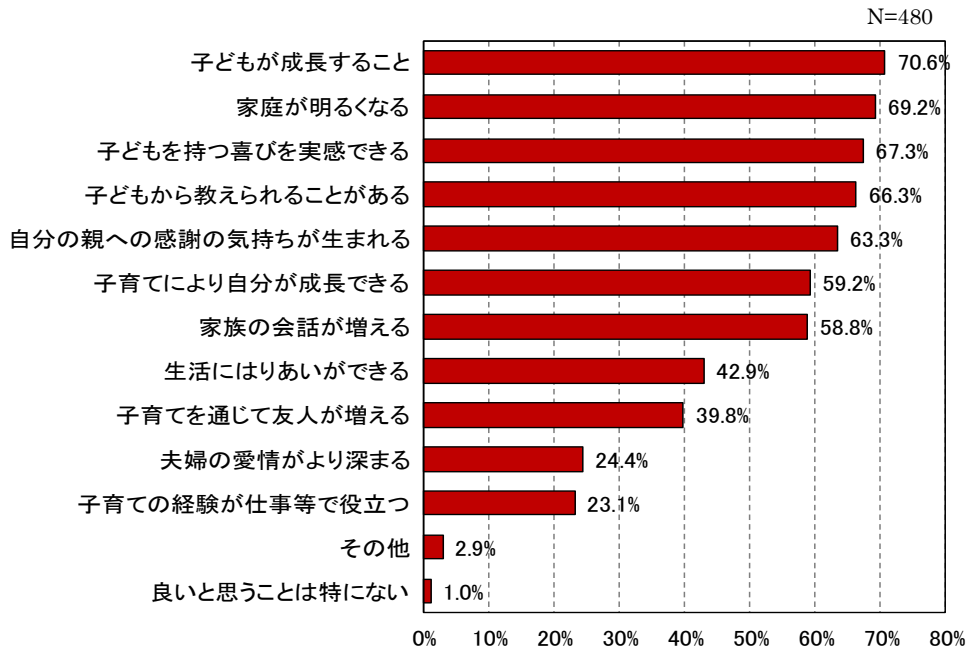
N=542



Ⅲ 子どもがいる人の子育てに関する意識

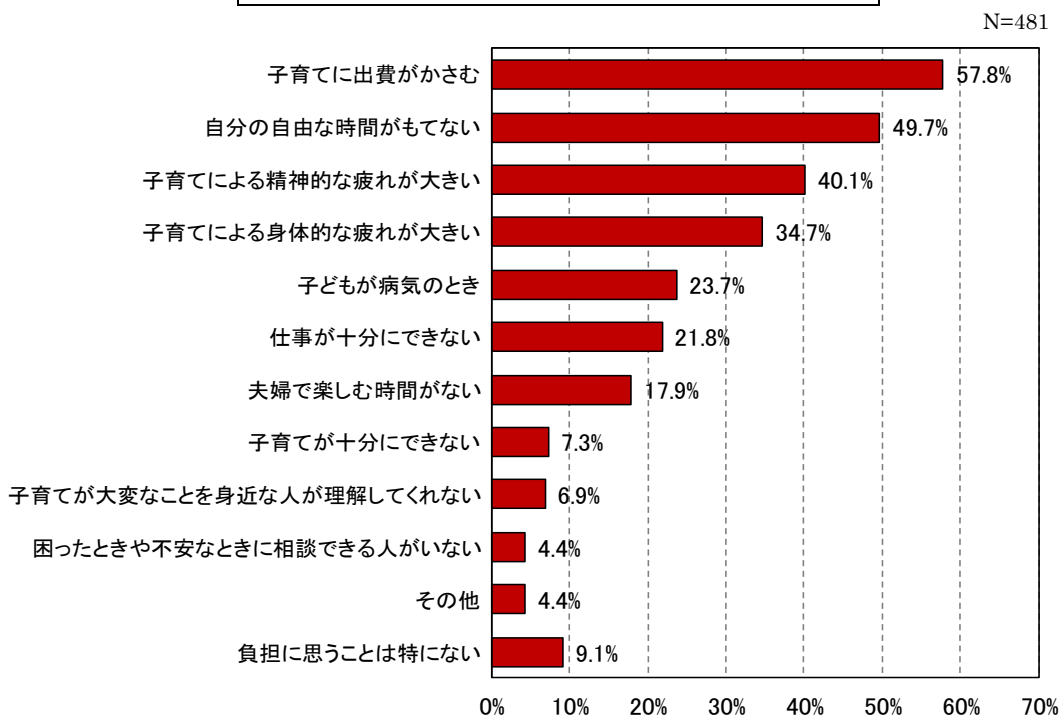
- 子育てをして良かったと思うこととして、約7割の方は、「子どもが成長すること」、「家庭が明るくなる」、「子どもを持つ喜びを実感できる」などと回答している。

図5 子育てをして良かったと思うこと（複数選択可）



- 子育てをして負担に思うこととして、「子育てに出費がかさむ」と答えた方は5割を超えており、次いで「自分の自由な時間がもてない」、「子育てによる精神的な疲れが大きい」の順となっている。

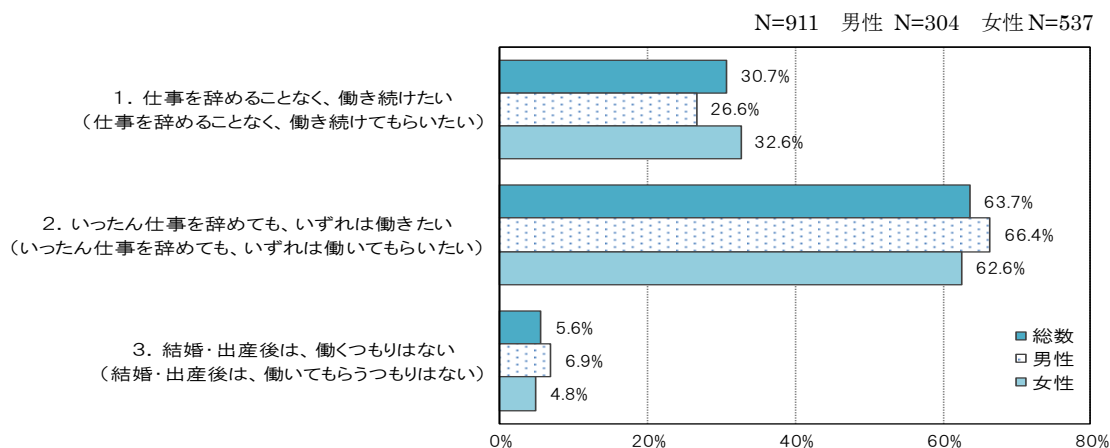
図6 子育てをして負担に思うこと（複数選択可）



IV 仕事と子育ての両立に関する意識

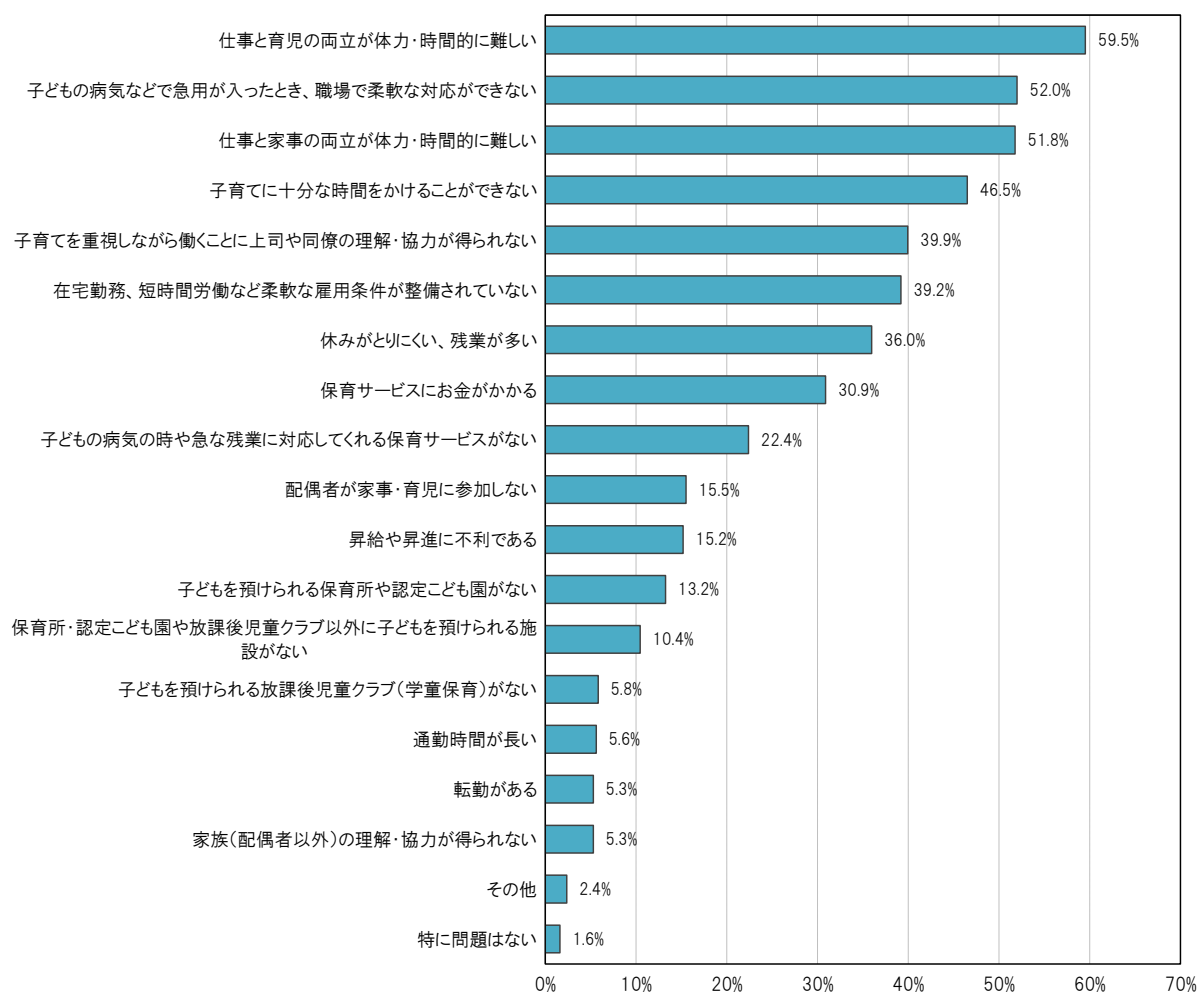
- 結婚・出産後も、「継続して働きたい」、「いったん仕事を辞めても、いずれは働きたい」と考える女性は約95%で、「パートナーに働いてもらいたい」と考える男性も9割を超えている。

図7 女性の結婚・出産後の働き方



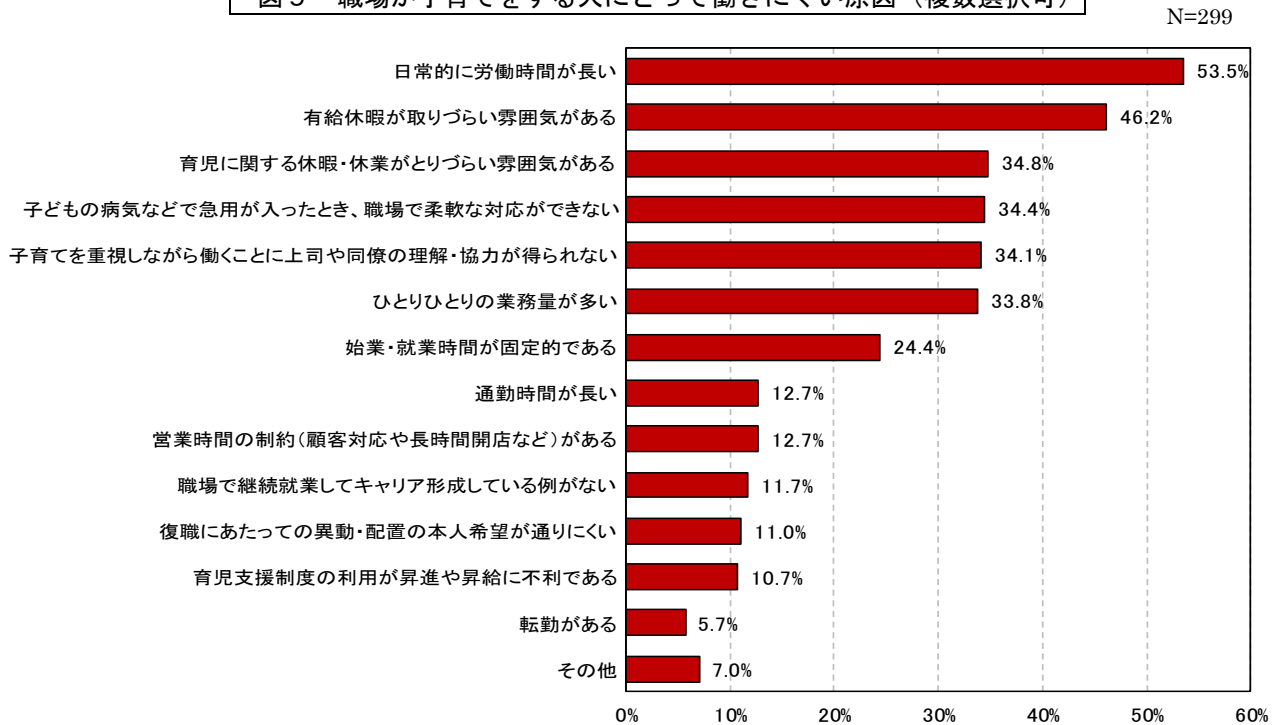
- 女性が子育てをしながら働く上での問題点として、「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」と回答した方が59.5%で最も多く、次いで「子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」となっている。

図8 女性が子育てをしながら働く上での問題点（複数回答可）



- 子育てをする人にとって職場が働きにくい原因としては、「日常的に労働時間が長い」、「有給休暇が取りづらい雰囲気がある」と回答した方が多い。

図9 職場が子育てをする人にとって働きにくい原因（複数選択可）



V 少子化に関する意識等

- 低出生率が続くことについて将来に危機感を持つ人は7割を超えており、具体的には、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」、「労働人口の減少など、経済活力に与える影響」を懸念している方が多い。

図10 少子化に関する将来への危機感

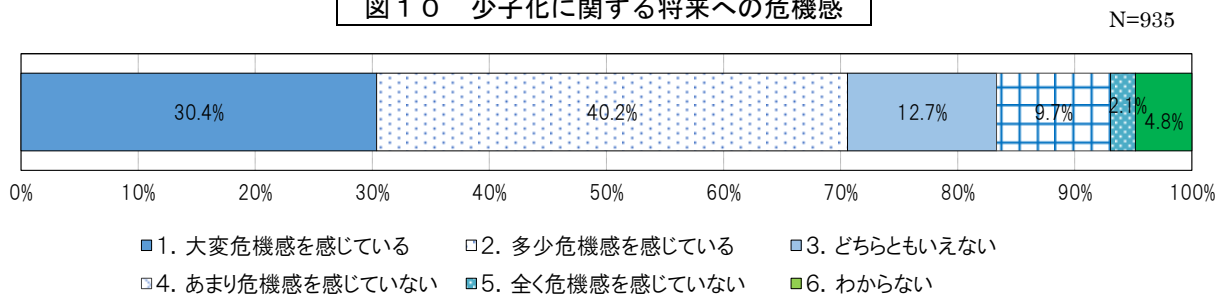
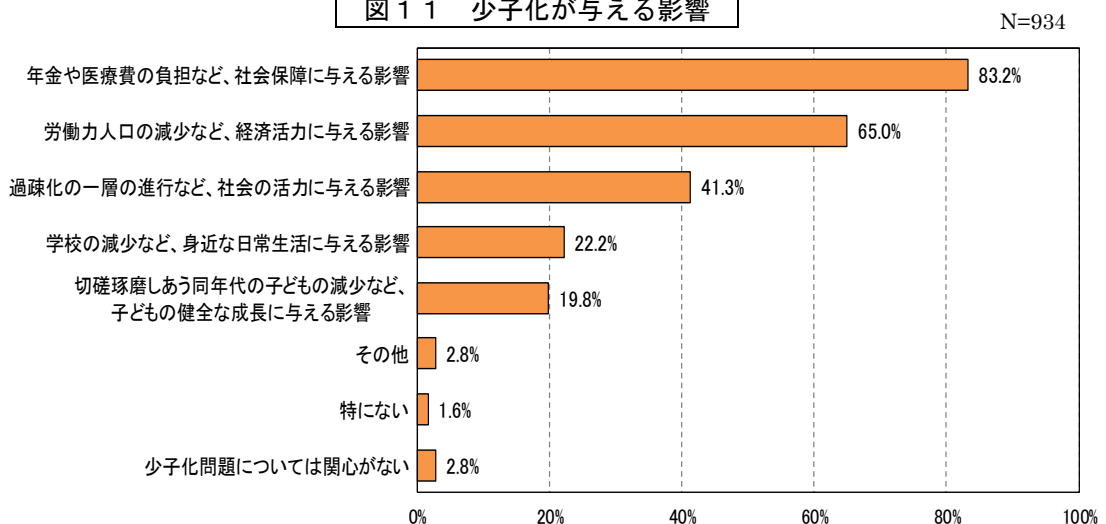


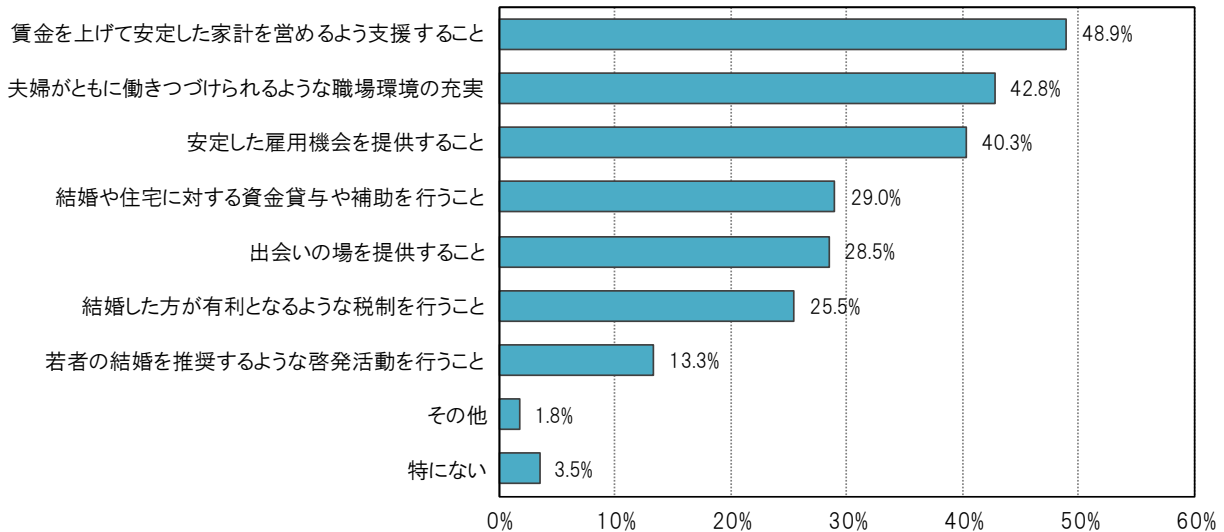
図11 少子化が与える影響



- 結婚を支援する施策としては、「賃金を上げて安定した家計を営めるような支援」を求める声が最も多く、次いで「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」、「安定した雇用機会の提供」の順となっている。

図12 結婚を支援する施策として重要だと思うこと（3つ以内選択）

N=938



- 育児を支援する施策としては、「子育てに対する経済的支援の充実」を求める声が最も多く、次いで「育児休業をとりやすい職場環境の整備」、「教育費への支援の充実」の順となっている。

図13 育児を支援する施策として重要だと思うこと（3つ以内選択）

N=936

